

◇国際シンポジウム 実績なし

◇国内シンポジウム No.1 ウチナーンチュの移民 境界と移動

日時	プログラム内容
2024（令和 6）年 7 月 20 日（土）13：30～ 17：00	主催：名桜大学大学院国際文化研究科 共催：名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター、名桜大学環太平洋地域文化研究所 後援：名桜大学開学 30 周年・公立大学法人化 15 周年記念事業実施本部 会場：沖縄市民会館 中ホール <概要> 次第 全体進行：坪井 祐司（名桜大学教授） 13:30-13:35 開会の挨拶 嘉納 英明（名桜大学大学院研究科長） 13:35-13:40 名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター設立について 砂川 昌範（名桜大学学長・名桜大学沖縄 ディアスポラ研究センター長） 13:40-13:45 シンポジウム趣旨説明 坪井 祐司（名桜大学教授） 13:45-14:25 基調講演 『眉屋私記』と屋部 比嘉 久（名護博物館特任館長） 14:25-14:35 解説：上原 なつき（名桜大学准教授・名桜大学 沖縄ディアスポラ研究センター研究員） <シンポジウム> ファシリテーター：屋良 健一郎（名桜大学上級准教授） 14:45-15:45 （20 分×3 人） 登壇者① キューバ沖縄移民による宗教実践の現在－日系人共同墓と慰霊行事の調査報告－ 上原 なつき（名桜大学准教授・名桜大学 沖縄ディアスポラ研究センター研究員） 登壇者② 越境するウチナーンチュ－具志川からブラジルへの出移民と多様な移動の経験－ 長尾 直洋（名桜大学准教授・名桜大学 沖縄ディアスポラ研究センター研究員） 登壇者③ ペルー沖縄移民のアルゼンチンとブラジル転住 我那覇 宗孝（名桜大学客員教授・名桜大 学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）

15:45-16:15	<パネルディスカッション>	
16:15-16:45	<質疑応答・情報交換>	
16:45-16:55	総括	坪井 祐司（名桜大学教授）
16:55-17:00	閉会挨拶	屋良 健一郎（名桜大学上級准教授）



2022年には世界のウチナーンチュとの学術的、人的、文化的交流を促進すべく、名桜大学沖縄ディアスポラ研究センターが創設されました。また同年には新型コロナウイルス禍を経て第7回世界のウチナーンチュ大会が開催され、2024年1月には沖縄県による国内外ウチナーンチュ交流拠点の設置構想の発表もあるなど、世界のウチナーンチュの紐帯への関心は日々高まっています。日本国内でも有数の移民県として知られる沖縄は、世界各地の県系移民とその子孫との特別な繋がりを有しておりその繋がりは心情的なものに留まらず、学術的、人的、文化的、経済的交流を通して双方を高めあう可能性を秘めています。本シンポジウムでは、沖縄本島北部地域を中心とした中南米への出移民について、一因・地域に限定されないその越境性と移動性に注目しつつ、故郷沖縄と出移民先との歴史的繋がりを再確認し、今後の紐帯の在り方について考える機会とします。

■シンポジウム

ウチナーンチュの移民 境界と移動

プログラム	全体進行：坪井 祐司（名桜大学教授）
開会挨拶	13:30-13:35 嘉納 英明（名桜大学大学院研究科長）
名桜大学沖縄ディアスポラ研究センターの設立について	13:35-13:40 砂川 昌範（名桜大学学長・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター長）
シンポジウムの趣旨説明	13:40-13:45 坪井 祐司（名桜大学教授）
講演講演	13:45-14:35 「眉屋私記」と屋部 比嘉 久（名瀬博物館特任教授）
解説：上原 なつき（名桜大学准教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）	
休憩	14:35-14:45
シンポジウム（各20分の報告）	14:45-15:45
ファシリテーター：屋良 健一郎（名桜大学上級准教授）	
キューバ・沖縄移民による宗教実践の現在―日系人共同墓と慰霊行事の調査報告―	上原 なつき（名桜大学准教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）
越境するウチナーンチュ―具志川からブラジルへ―の出移民と多様な移動の経験―	長尾 直洋（名桜大学准教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）
ペルー・沖縄移民のアルゼンチンとブラジル転住	我部 宗孝（名桜大学客員教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）
パネルディスカッション	15:45-16:15
質疑応答・情報交換	16:15-16:45
総括	16:45-16:55 坪井 祐司（名桜大学教授）
閉会挨拶	16:55-17:00 屋良 健一郎（名桜大学上級准教授）

■主催：名桜大学大学院国際文化研究所 ■共催：名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター、名桜大学環太平洋地域文化研究所
■問い合わせ先／名桜大学環太平洋地域文化研究所 〒905-8585 名瀬市字為久1220番地の1 TEL:0980-51-1107
■後援：名桜大学開学30周年・公立大学法人化15周年記念事業実施本部

「眉屋私記」と屋部

比嘉 久（名瀬博物館特任教授）

1984年3月10日に潮出版社から発行された『眉屋私記』は、現在の名瀬市屋部にあった「眉屋（山人寓家）」の人びとの生きざまを通して近代沖縄の歴史を描いた記録文学作品である。著者は炭鉱労働者の暮らしを描いた記録文学作品を多く遺した上野 愛白氏（1987年没）である。『眉屋私記』の序章「露伴吉の親戚屋」で題に據られている「親戚屋」は、屋部の人びとが移民や出稼ぎに旅立つときに見送りの場となった大切な場所である。2021年、その親戚屋の跡に「眉屋私記文学碑」が建立された。『眉屋私記』には屋部の地名、屋戸、そしてそこで暮らした人びとの姿が鮮明に描かれており、屋部にとって大切な宝の書物である。

解説

上原 なつき（名桜大学准教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）

沖縄県出身者のキューバへの初移民は、1907年にメキシコ経由で渡った大宜味村出身の宮城勝が最初である。1907年はアメリカ合衆国と日本政府との間で非公式な協定が結ばれたため、それ以降、日本からアメリカへ移民することが制限されてしまった。それを受けて、隣国メキシコから陸路で不法にアメリカへの移民を試みた者、密めてメキシコからペルーやキューバなどへさらに転移民した者も多かった。つまり、『眉屋私記』の主人公の一人である山人寓家が1916年にメキシコからキューバへと移民したことは取り立てて珍しいことではなかった。当時、「アメリカの東郷」とも呼ばれたキューバでは、アメリカ企業が大農場を経営し、アメリカ輸出用の農作物が生産されており、沖縄移民の多くが農業に従事していた。そのような状況のなか、サーカス団員やドバイ公使の運転手という職業の経験はキューバ・沖縄移民のなかでも特異な事例であったといえる。

キューバ・沖縄移民による宗教実践の現在―日系人共同墓と慰霊行事の調査報告―

上原 なつき（前掲）

社会主義体制による海外渡航の制限、経済的困難、インターネット環境の不十分などにより、キューバ・沖縄系系人が来邦することはおろか、オンラインを介した交流もまだ困難である。そのため、一昔が不在となった現在では沖縄系系人で日本語および沖縄語を話せる者はほとんどおらず、沖縄文化や沖縄的宗教実践もほぼ継承されていない。また、結社の制限のため、政府公認の「屋人会」が設立できないという特殊事情がある。このような状況において、首都ハバナで沖縄系系人を含む日系人の紐帯となっているのが「キューバ日系人慰霊堂」という共同墓と、毎年1月に開催される慰霊行事である。

越境するウチナーンチュ―具志川からブラジルへ―の出移民と多様な移動の経験―

長尾 直洋（名桜大学准教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）

本報告では、沖縄県中部に位置し、県内でも多数の移民・移住者を輩出した具志川地域を対象とした地域史に注目し、特に証言資料を参照することで、証言資料のみでは確認できない、具志川から南米へ移動した人々の、一因・地域を越えた移動経験や暫留の越境性を指摘する。具体的には、第二次世界大戦直後に具志川からブラジルへと渡った移民・移住者43名の証言資料から、日本国内、旧日本帝国勢力圏内、ハワイや中南米などについての直接・間接の移動経験や情報とブラジル渡航との関連性を示す。

ペルー・沖縄移民のアルゼンチンとブラジル転住

我部 宗孝（名桜大学客員教授・名桜大学沖縄ディアスポラ研究センター研究員）

ペルーは1899年に日本移民を、1906年に沖縄移民を受け入れた最初の国であったが、当時の移民の生活・労働条件はまだ形成途上であり、多くの人々を満足させるものではなかった。1910年、転住の第 2 の波が起こり、多くの沖縄移民がより良い生活環境を求めてアルゼンチンやブラジルに転住し始めた。その後、ペルーでは沖縄移民の状況は改善され、経済的に豊かな状況になったが、第二次世界大戦によってその状況は断ち切られた。終戦時、ペルーは18年間にわたり、沖縄で留学していた二世の帰国を拒否した。こうして1950年代、転住の第2の波が起こり、3,000人以上の二世が沖縄からボリビア、アルゼンチン、ブラジルに渡り、もう一度家族が再会し、新しい生活を始めた。

日時	プログラム内容
2024（令和6）年 8月31日（土） 13:30～16：50	主催：名桜大学環太平洋地域文化研究所 共催：一般社団法人 IT ヘルスケア学会 (https://17th.ithc.mobi/) 後援：一般社団法人 SDGs デジタル社会推進機構 (https://ods.or.jp/) 一般社団法人 PHR 普及推進協議会 (https://phr.or.jp/) 名桜大学開学 30 周年・公立大学法人化 15 周年記念事業実施本部 会場：名桜大学多目的ホールおよびオンライン配信（zoom） <概要> 次第 13:00-13:05 開会の挨拶 奥本 正（名桜大学学長補佐） 13:05-13:30 基調講演 『医療へのデジタル技術の活用で楽しく健康に暮らせる社会へ』 宮田 俊男（早稲田大学大学院先進理工学研究科教授） ○シンポジウム <第1部> デジタル技術で医療がもっと身近なものになる ファシリテーター：木暮 祐一（名桜大学教授） 13:35-15:05 パネルディスカッション 話題提供 『医療は手のひらに』 木暮 祐一（名桜大学教授） 登壇者① 『オンライン診療が地域医療にどのように貢献したか』 黒木 春郎（医療法人嗣業の会 こどもととなのクリニックパウルーム理事長厚生労働省「オンライン診療の適切な実施に関する指針の見直しに関する検討会」構成員） 登壇者② 『AI とヘルステックがもたらす未来の健康管理』 大石 怜史（ヘルスケアテクノロジーズ株式会社 代表取締役 兼 CEO） <第2部> PHR でやんばるがどう変わるのか ファシリテーター：本村 純（名桜大学上級准教授）

15:15-16:45 パネルディスカッション

話題提供 『PHRをめぐる最新の動向と地域医療への活用の可能性』

石見 拓（京都大学大学院医学研究科
教授）

登壇者① 『公立沖縄北部医療センター開院への期待－北部地域における医療
の現状と課題を踏まえて－』

田里 大輔（沖縄県北部地区医師会病院
医療連携統括部長）

登壇者② 『アプリを通じた住民健診データの活用』

田中 健介（沖縄セルラー電話株式会社
ソリューション営業本部ビ
ジネス開発部部長）

16:45-16:50 閉会挨拶

奥本 正（名桜大学学長補佐）

■シンポジウム

医療・健康分野の デジタルトランス フォーメーション

～医療アクセス改善からPHR活用まで、
デジタル技術が医療・健康をどう変えるのか？～

医療分野におけるデジタル技術の活用が進展している。とくに新型コロナウイルス感染症の感染拡大が契機となってオンライン診療をめぐる規制緩和も進み、デジタル技術を活用した様々な医療・健康サービスが広まりをみせている。また、情報通信ネットワークを通じて収集された各種情報はPHR（パーソナルヘルスレコード）として蓄積され、疫学的研究から一般向け健康サービスに至るまで様々な活用に期待が寄せられている。こうした医療のデジタルトランスフォーメーションは今後地域に暮らす人たちの健康な暮らしにどのように貢献していくのだろうか。本シンポジウムでは、医療分野におけるデジタル技術の活用を推進されてきた様々な立場の方々からご講演をいただくと共に、医療へのアクセスの改善やPHRの活用による沖縄県民の生活に根差した医療のデジタルトランスフォーメーションのあり方について議論していきたい。

2024.8/31^土 13:00～16:50
名桜大学多目的ホール
およびオンライン配信(zoom)

プログラム ファシリテーター：木暮 祐一（名桜大学 教授）、本村 純（名桜大学 上級准教授）

13:00-13:05 開会の挨拶 奥本 正（名桜大学 学長補佐）

13:05-13:30 基調講演
『医療へのデジタル技術の活用で楽しく健康に暮らせる社会へ』
宮田 俊男（早稲田大学大学院先進理工学研究所 教授）

<第1部> デジタル技術で医療がもっと身近なものになる
ファシリテーター：木暮 祐一（名桜大学 教授）

13:35-15:05 パネルディスカッション
話題提供 『医療は手のひらに』
木暮 祐一（名桜大学 教授）

登壇者① 『オンライン診療が地域医療にどのように貢献したか』
黒木 智郎（医療法人磨練の会 こどもとおとなのクリニックバウルーム 理事長/
厚生労働省「オンライン診療の適切な実施に関する指針の周知に関する検討会」構成員）

登壇者② 『AIとヘルステックがもたらす未来の健康管理』
大石 伸史（ヘルスケアテクノロジー株式会社 代表取締役社長 兼 CEO）

15:05-15:15 休 憩

<第2部> PHRでやんばるがどう変わるのか
ファシリテーター：本村 純（名桜大学 上級准教授）

15:15-16:45 パネルディスカッション
話題提供 『PHRをめぐる最新の動向と地域医療への活用の可能性』
石見 拓（京都大学大学院医学研究科 教授）

登壇者① 『公立沖縄北部医療センター開院への期待
－北部地域における医療の現状と課題を踏まえて－』
田里 大輔（北部地区医師会病院 医療連携統括部長）

登壇者② 『アプリを通じた住民健診データの活用』
田中 健介（沖縄セルラー電話株式会社ソリューション営業本部ビジネス開発部 部長）

16:45-16:50 閉会挨拶 奥本 正（名桜大学 学長補佐）

主催：名桜大学環太平洋地域文化研究所 共催：一般社団法人ITヘルスケア学会(<https://17th.ithc.mobi/>)
後援：一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構(<https://ods.or.jp/>) 一般社団法人PHR普及推進協議会(<https://phr.or.jp/>)
名桜大学開学30周年・公立大学法人化15周年記念事業推進本部
問い合わせ先：名桜大学環太平洋地域文化研究所 〒905-8585 名桜市宇治又1220番地の1 TEL:0980-51-1107

参加対象者
ITヘルスケア学会
参加者および
やんばる地域の
医療従事者、
地域・一般の皆様、
後援団体の会員
参加費無料
事前申込み不要



<https://www.melo-uac.jp/>
オンライン配信の視聴については、
品って名桜大学IP
イベント欄に掲載いたします

◇名桜やんばるアカデミー

「いま、『平和』について考える－歴史学・文学からの視座－」

日時	講師	プログラム内容
2025年2月5日（水） 18：15～19：45	小嶋 洋輔	戦争と文学－古山高麗雄の従軍体験
2025年2月12日（水） 18：15～19：45	坪井 祐司	東南アジアの植民地から見た帝国日本
2025年2月19日（水） 18：15～19：45	山城 智史	琉球処分をめぐる日・米・清の動き

令和6年度 環太平洋地域文化研究所 名桜やんばるアカデミー

いま、「平和」について考える 歴史学・文学からの視座

現代社会は、人・モノ・情報が交錯し、今や瞬時に世界中と繋がる時代となった。
一方で、世界はいまだ混沌とした状況にあり、「平和」への道を模索している。
このような世界情勢を踏まえ、令和6年度名桜やんばるアカデミーでは、
名桜大学の建学の精神である「平和・自由・進歩」に基づき、
歴史学と文学からの横断的なアプローチによって、新たな「平和」を考える。
これからの社会において「平和」をどのように構築すべきか、「平和」の意義をやんばるで考える。

Vol.1 2025.2/5 18:15～19:45

「戦争と文学－古山高麗雄の従軍体験」

講師：小嶋 洋輔 教授（日本近現代文学研究）
古山高麗雄は1970年に「ブレオ－8の夜明け」で芥川賞を受賞した。古山が50歳のことで、古山の前半生は、当時の「スタンダード」「常識」としてあった「軍国」的な考えとそれに反発しつつ付き合うものと要約できる。それらの体験を古山は戦後四半世紀経過後に小説化するようになった。古山のこうした戦後の眼差しは、若かりし自分と「軍国」をどのように描いたのだろうか。それを探ることは、「日本」が「戦争」をどのように相対化し得たか／し得なかったかを見出すものとなる。戦争体験を書いたほかの小説家を紹介、比較しつつ、古山の描いた「平和」に迫ってゆきたい。

<https://zoom.us/j/99487158466?pwd=jqrD4dOdLGakT5SuXjSUFLFmSMo.1>

Vol.2 2025.2/12 18:15～19:45

「東南アジアの植民地から見た帝国日本」

講師：坪井 祐司 教授（東南アジア史）
20世紀初頭、東南アジアの大半の地域は欧米の植民地であり、各地でそれに対抗するナショナリズムが高揚した。イギリス統治下のマラヤ（現マレーシア）におけるマレー人による出版活動もその一部であった。その植民地秩序を破壊しようとしたのが連れてきた帝国日本であった。戦争の危機が迫るなか、マレー人のナショナリストたちはどのようにアジアの現状を見ていたのか。そのなかで日本に向けられた眼差しはどのようなものだったのか。そして、帝国主義、植民地主義に覆われた時代における平和とは何だったのか、マレー語による言論活動の紹介を通じて、彼らが目指したものについて考えてみたい。

<https://zoom.us/j/99680393786?pwd=aCG0pa20WQ0WkdESK8kuHWWHBUV6o.1>

Vol.3 2025.2/19 18:15～19:45

「琉球処分をめぐる日・米・清の動き」

講師：山城 智史 上級准教授（国際関係史）
琉球処分によって、琉球は琉球藩、沖縄県と段階を踏みながら、日本に組み込まれることになった。清朝は琉球処分に対して抗議をするが、明治政府は琉球処分をあくまでも「内政」と主張することで取り合ってくれなかった。しかし、1879年に米国の介入によって、琉球処分は徐々に日清間の外交問題として発展していくことになる。明治政府はこれを機に、懸念事項であった日清修好条約の改正を琉球問題と絡めてくる。日本・米国・清朝の一次史料を紹介しながら、約150年前の琉球をめぐる国際関係史から「平和」への道を模索する。

<https://zoom.us/j/93448815983?pwd=D9aewxeLTJccM7omoZEh8MK7LXCsFK.1>

■参加対象者／一般市民・学生
■先着100名／参加費無料
■開催場所／名桜大学北部生涯学習推進センター1F 研修室 及び オンライン(ZOOM)
●お問合せ先：環太平洋地域文化研究所（0980-51-1107）

公立大学法人
名桜大学
MEIO UNIVERSITY